

◇各教科等の授業改善に向けた具体的な方策

【家庭】

| | |
|------------------------|---|
| <p>■生徒の状況</p> | <p>(1) 1学年 授業に落ち着きのない生徒、説明や指示を聞いて理解することが難しい生徒がいる。また、一つの課題にじっくりと取り組むことが苦手である。</p> <p>(2) 2学年 落ち着いた生徒がいる中で作業の進度も速い。一方、集団に参加することが苦手な生徒や落ち着きのない生徒も見受けられる。</p> <p>(3) 3学年 進路に向けて3年生の自覚をもち、授業へ真剣に取り組む意欲を感じる。一方、学んだことを表現することが苦手な作品完成までに時間がかかる生徒が多い。</p> |
| <p>■指導についての課題</p> | <p>(1) 個人の活動になると質問が多く。個々に丁寧な対応をすることが難しいことがある。学習への意欲化を図る必要がある。</p> <p>(2) 日常生活の体験不足から、小学校や家庭で身に付ける基礎的な生活技術が足りない難しさがある。</p> <p>(3) 将来の実生活に結びつく具体的な学習を通して、実体験を増やしていく工夫をする。</p> |
| <p>■授業改善に向けた具体的な方策</p> | <p>1 基礎学力の定着</p> <p>(1) 文章や言葉だけでなく、絵、写真や図、模型などを取り入れ、視覚的な面から興味関心を引き出させる。</p> <p>(2) 苦手な生徒には昼休み時間や放課後を利用して基礎から丁寧に指導する。また、得意な生徒には積極的にコンクールやコンテストなどにもチャレンジさせる。</p> <p>(3) 限られた時間で日常生活に生かすことのできる学習活動や実習を行う。基礎的技量を身に付け、更に思考・判断することで考える力、オリジナリティを育て、表現力を高めさせる。</p> <p>2 1を支える家庭学習の推進</p> <p>3 授業における思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>(1) お互いに教え合い、協力しながら課題に取り組めるように個別に適切な支援を行う。</p> <p>(2) 全体の流れやめあてを確認し見通しをもち、工夫して制作に取り組む。</p> <p>4 3を自ら伸ばしていくための主体性の育成</p> <p>(1) 振り返りプリントを用いて、自己評価させる。</p> <p>5 ICT機器を活用した授業実践例</p> <p>(1) 生徒の思考力・判断力・表現力・主体性の育成を図るために、書画カメラやデジタル教科書、電子黒板等のICT機器を積極的に活用していく。</p> <p>6 小中一貫</p> <p>(1) 小学校から中学校へスムーズに移行できるように小中連携研修会から学んだことを指導計画に生かす。</p> |